

トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年6月12日

これは米国農務省海外農業局のアンカラ事務所(トルコ)が作成した「柑橘類半期報告書」のオレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要旨

トルコは2023/24年度に、前シーズンより39%多い約650万トンの柑橘類を生産すると予測される。しかし、収穫量の増加は、販売と消費に同時並行の問題をもたらした。多くの生産者が直面している収益性の低さから、多くの果樹園から柑橘類が取り除かれている。現地の関係者らは、柑橘類の生産者と輸出業者が事業を維持するためには、新たな輸出市場と輸出補助金が不可欠だという。トルコの輸出業者らは、気候の変動により南アフリカとアルゼンチンがトルコと販売時期が重なる競争相手になったと考えている。2023/24年度の最初の4カ月間に、トルコは前シーズンと比較して25%多い柑橘類を輸出し、それらは主にロシア向け(1億4,800万ドル)及びイラク向け(9千万ドル)であった。

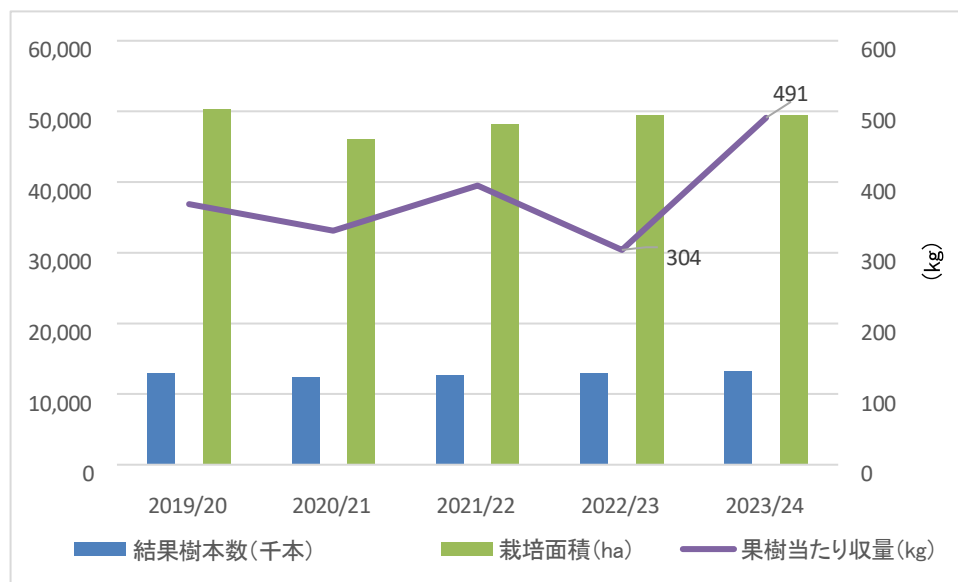
<オレンジ(生鮮)>

生産

2023/24年度のオレンジの収穫量は、2023年春の好ましい天候により、31%増の173万トンになると予測される。トルコのオレンジ総生産量の70%を占めるワシントン品種とヤファ品種は、全体的な収量増加の主な原動力である。果樹1本当たりの収量は、ヤファ品種で71%、ワシントン品種で38%増加した。収量の増加は、主にエーゲ海地方で見られると見込まれる。2022/23年度のトルコのオレンジ生産量は132万トンで、2021/22年度(175万トン)に比べて24.5%少なかった。

農場出荷価格は前シーズンから20%下落し、8~10トルコリラ(TL)(0.2~0.3ドル)/kgとなっているが、小売価格は20~25TL(0.7~0.9ドル)/kgで高止まりしている。

図1 トルコのオレンジ果樹園面積(ha)、結果樹及び未結果樹本数並びに果樹1本当たり収量(kg)
2019-2024 販売年度



出典: トルコ統計庁 2024

チチュウカイミバエは依然として大きな懸念事項であり、質的、量的な損失を引き起こしている。この害虫を駆除するため、農林省は、ミバエ用のフェロモントラップを県事務所や業界団体を通じて生産者に無料で配布している。一方、北キプロス・トルコ共和国(TRNC*)で見られる柑橘類の緑化病は、TRNCからの柑橘類の輸入により、トルコの柑橘類生産者の間で深刻な懸念事項となっている。(※訳注: トルコだけが国家承認しているキプロス島北部のトルコ系住民の多い地域)

この1年間、トルコの農民は人件費が持続不可能なレベルにまで上昇していると不満を漏らし、トルコの農業労働者は賃金が低すぎて快適に暮らせないと主張している。その結果、トルコの柑橘類生産者らは、賃金の安いアフガニスタンやシリアの難民に目を向けるようになった。

消費

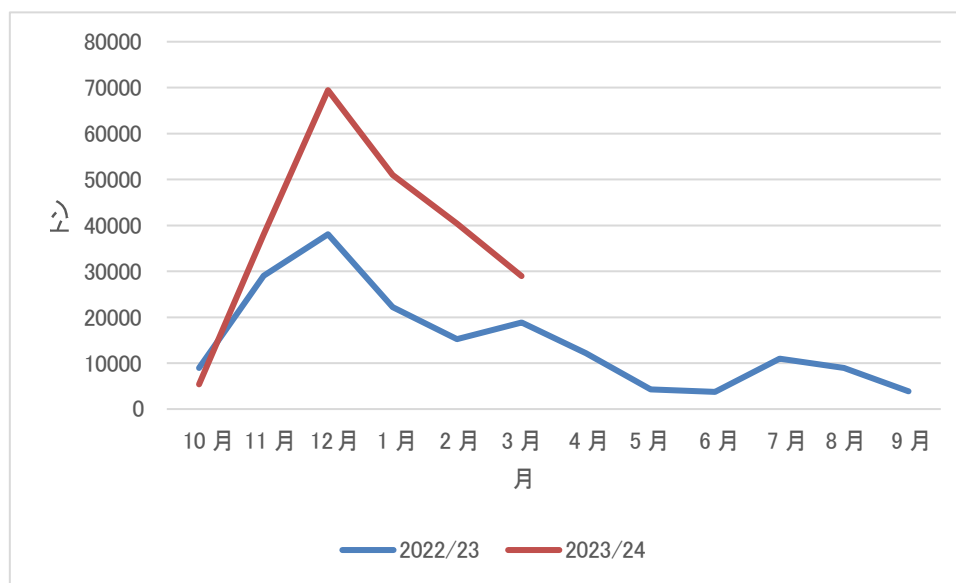
2023/24年度のオレンジ消費量は、生産量の増加により136万トンに増加すると予想されるが、輸送コストや販売コスト(電気代、梱包代等)の上昇により、小売販売価格は依然として高い。2022/23年度のオレンジ消費量は100万トンで、2021/22年度(130万トン)より23%減少した。2022年にトルコ統計庁が発表した最新のデータによると、1人当たりのオレンジ消費量は9.7kgであった。

オレンジの平均小売価格は、農場出荷価格の最大3倍である。この価格差は、生産物が小売店の棚に並ぶまでに、販売業者や輸送・物流業者が価格を上乗せしていることに起因している。他の柑橘類も、同じ理由で農場と小売店の間で大きな価格差が生じている。

貿易

2023/24年度のオレンジの輸出量は、収量と外需の増加に比例して、前シーズン比39.7%増の24万6千トンと予測される。しかし、こうした増加にもかかわらず、トルコの輸出業者らは、競合する他国の高収量と輸出価格の低さに懸念を抱いている。トルコの輸出業者らは、輸出コストの上昇と競争に対処するために補助金が重要であると考えており、農林省からの輸出補助金を求めてロビー活動を続けている。

図2 トルコの月別オレンジ輸出量 2022-2024 販売年度



出典: Trade Data Monitor, LLC

2023/24年度上半期にトルコは23万3,217トンのオレンジを輸出し、これは前年同期より76.2%多く、そのほとんどがイラク、ロシア、シリア、ウクライナに輸出された。オレンジの輸出額は、2023/24年度上半期に前年比85%増の1億2,900万ドルとなり、柑橘類の中で最も輸出の成長率が高かった。

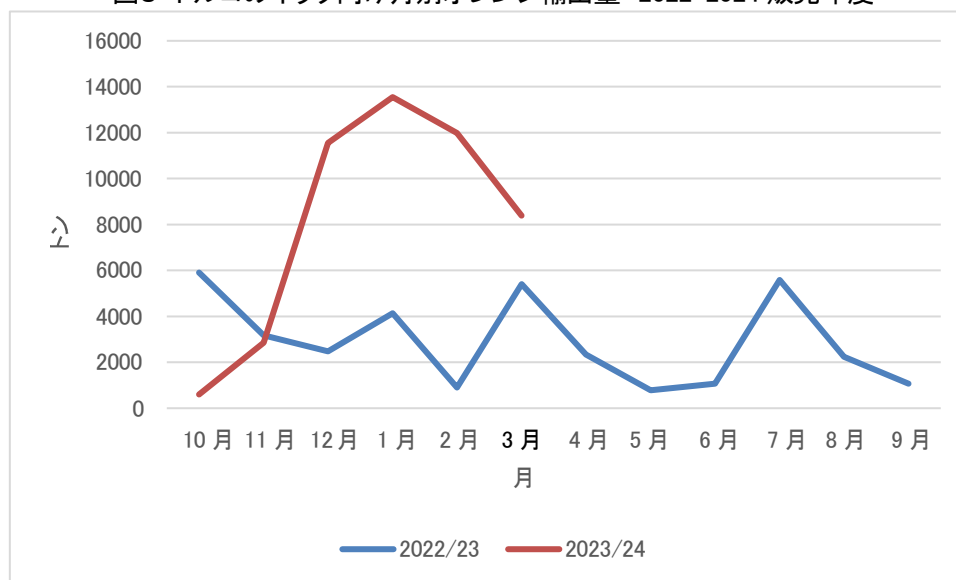
それにもかかわらず、2022/23年度のイラク向けのオレンジ輸出は、価格の下落とイラク政府による国内生産者への支援により大幅に減少した。しかし、2023/24年度上半期のイラクへのトルコ産オレンジの輸出額は、需要の高さから前年同期比918%増の3,230万ドルとなった。2024年の最初の6カ月で、イラクはトルコ産オレンジの輸出先としてロシアを抜いて最大の国となった。

トルコの輸出業者らは、エジプトとギリシャの投入コストが偶々低いことから、これらの国が主要な競争相手であると考えている。

2022/23年度のトルコのオレンジ輸出量は17万6,377トンで、2021/22年度(38万9千トン)に比べて

54%少なかった。この減少は、栽培面積と結果樹本数の増加にもかかわらず、2022年3月のオレンジの開花期の低温により、生産量が減少したことによるものである。さらに、トルコの生産量の70%が地中海地方に偏っているため、2023年2月の地震も柑橘類の輸出に影響を与えた。

図3 トルコのイラク向け月別オレンジ輸出量 2022-2024 販売年度



出典: Trade Data Monitor, LLC

EUと英国は、残留農薬の懸念に対処するために、2022年1月にトルコ産オレンジの適合証明書を要求し始めた。適合証明書を取得するには、貨物に特定の残留物がないか輸出前に検査する必要があり、輸出業者にとってコストがかかる。トルコ産オレンジの英国への輸出では、到着時の残留農薬検査が強化されており、出荷ごとの検査率は50%である。

輸入

当事務所は、国内生産の余剰と、北キプロス・トルコ共和国(TRNC)の柑橘類果樹園で緑化病が見られ、同国からの輸入が制限されていることから、2023/24年度のトルコのオレンジ輸入量の予測を3万トンから2千トンに修正した。2022/23年度には、トルコはTRNCから3万1千トンのオレンジを輸入した。トルコのオレンジ輸入は国内生産の状況に依存しているが、TRNCからの輸入は、トルコがTRNCを経済的・政治的に支援する手段でもある。

表1 トルコの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	48,176	48,176	49,535	49,535	51,000	51,000
収穫面積(ヘクタール)	48,176	48,176	50,000	50,000	51,000	51,000
結果樹本数(千本)	12,620	12,620	12,966	12,966	14,000	14,000
未結果樹本数(千本)	1,210	1,210	1,786	1,786	1,700	1,700
果樹本数合計(千本)	13,830	13,830	14,752	14,752	15,700	15,700
生産量(千トン)	1,750	1,750	1,320	1,320	1,731	1,731
輸入量(千トン)	45	45	31	31	30	2
総供給量(千トン)	1,795	1,795	1,351	1,351	1,761	1,733
輸出量(千トン)	389	389	176	176	246	246
生鮮国内消費量(千トン)	1,284	1,284	1,083	1,083	1,394	1,366
加工仕向量(千トン)	122	122	92	92	121	121
総仕向量(千トン)	1,795	1,795	1,351	1,351	1,761	1,733

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

生産

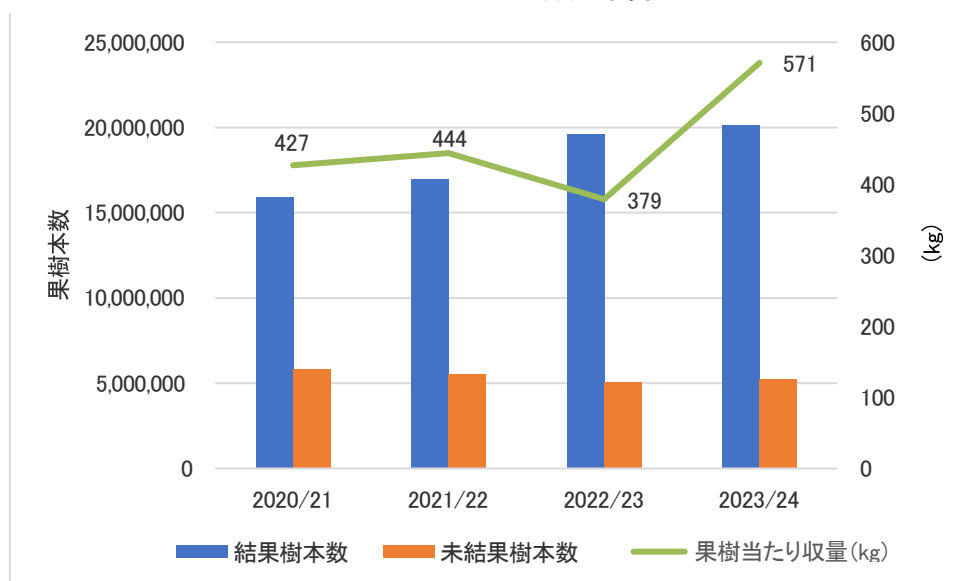
2023/24年度のタンジェリンの総生産量は、2023年3月の開花時の好ましい春の雨と気温条件により、55%増の288万トンと予測される。農場出荷価格は7~8TL(0.2ドル)/kgで、生産者は依然として高い生産コストを補うことができていない。一方、消費者価格は20~30TL(0.70~1ドル)/kgと高く、前年の2倍となっている。トルコの生産者らは収穫期の労働力不足を懸念しているが、労働者は日給の低さに不満を漏らしている。一方、生産者らは、農場出荷価格が低く高い生産コストを補うことができず、輸出補助金も少ないことから果実の販売に苦勞しており、果実を樹上に残すことを余儀なくされた。

タンジェリンはトルコで最も多く生産されている柑橘類で、タンジェリンの84%は地中海地方で生産されている。ウンシュウミカンはこの地域で最も広く生産されており、国内消費と輸出の両方にとって重要である。ウンシュウミカンの総生産量の80%は輸出用である。生産者らによると、消費者に好まれるダブルマーコット品種が過剰に植えられているが、生産者らは来年の生産過剰と収益性の低下を懸念している。

エーゲ海に近く従来は農地であった場所での建設や観光投資の増加により、この地域の将来の生産量も不確実である。現地の関係者らは、トルコ政府がこの地域の近代化と建設への投資を促進したため、かつては肥沃な農業拠点だった場所がコンクリートジャングルと化し、地元農民の生活が脅かされていると指摘した。

2022/23年度のマンダリン生産量は、地中海地方の好ましい天候により186万トンであった。2021/22年度のトルコのタンジェリン生産量は181万トンであった。

図 4. トルコのタンジェリンの結果樹及び未結果樹本数並びに果樹 1 本当たり収量
2020/21-2023/24 販売年度



出典: トルコ統計庁 2024

タンジェリン生産者が直面しているもう一つの問題は、果実の質と量に顕著な影響を与えている気候変動の影響である。一部の生産者は、マンゴー、キウイ、ドラゴンフルーツなど、もっと熱帯的な環境により適した他の作物にも目を向けている。これらの熱帯果実も同様に採算が合わないが、生産者らは果樹園を転換して、農林省が柑橘類産業への支援を増やすよう圧力をかけようとしている。

消費

トルコ国内の2023/24年度のタンジェリン消費量は、生産量の増加に伴い178万トンに増加すると推定される。これは、市場価格の上昇と輸出を増やすための継続的な努力、そして冬(トルコ人がより多くのタンジェリンを食べる傾向がある)の始まりが遅いにもかかわらず予想されることである。2022/23年度のマンダリン

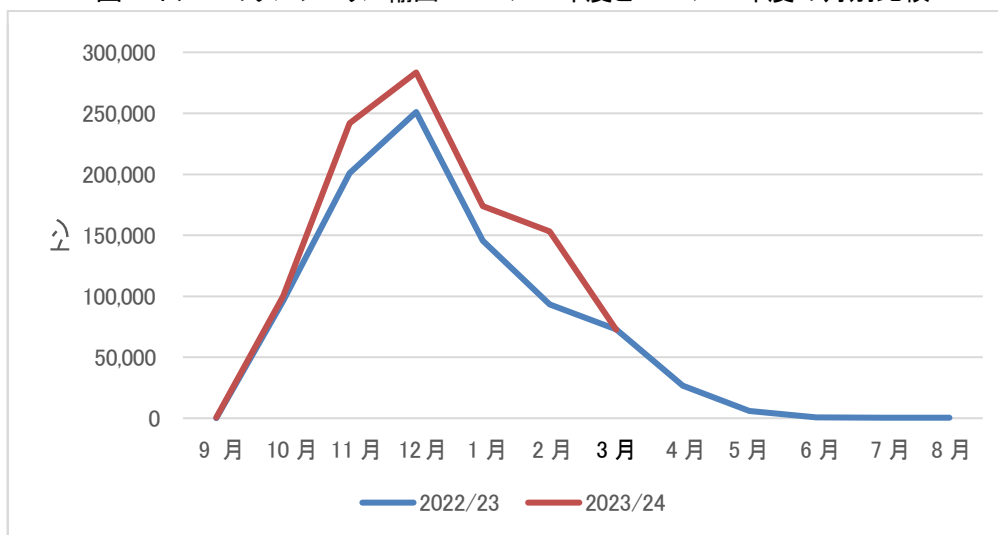
(原文のまま)消費量は、十分な国内生産と輸出の予想外の減少により、102万トンであった。2021/22年度のトルコの国内タンジェリン消費量は87万2千トンであった。

柑橘類生産者の代表者らは地方自治体に対し、生産者から生産コストをわずかに上回る価格で果実を購入し、手頃な価格で一般の人々に届けるよう求めている。そうすることで、内需を増やし、作物の損失を減らすことが期待されている。そうでない場合に考えられることは、生産者が需要不足のために柑橘類の果樹を伐根し続ければ、タンジェリンは今後のシーズンにはるかに高い価格で販売されるということである。

貿易

当事務所は、2023/24年度のタンジェリンの予測輸出量を130万トンから110万トンに若干下方修正した。2023/24年度の収穫量は、収量の増加と品質の向上により、2022/23年度よりも18%多い。一方、輸出業者らは、高い為替レートに対抗するため、梱包資材と輸送コストについて政府からの支援を引き続き求めている。また、彼らは支持価格安定基金(DFIF)も要求しているが、今年の生産物から利益を得るためには80ドル/トンに設定する必要があるところ、実際には1,500TL(52.5ドル)/トンが適用されてきている。

図5 トルコのタンジェリン輸出 2022/23年度と2023/24年度の月別比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

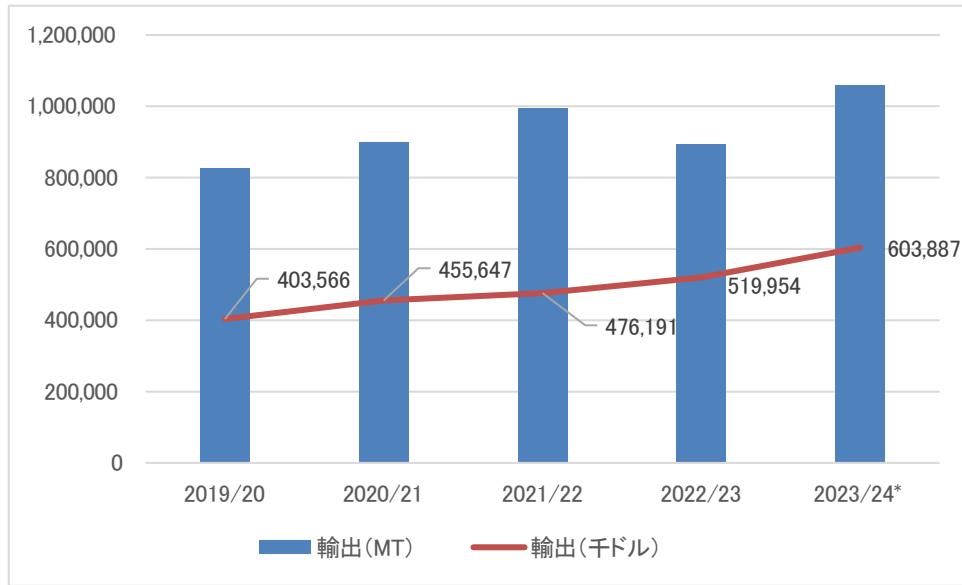
ウンシュウミカンの大部分は、ロシア、ウクライナ、セルビアに輸出されている。イラク政府が国内生産を支援するために果実と野菜の輸入を減速させることを決定したため、昨年はイラクへの輸出が減少した。これは、トルコの輸出業者にとって昨年の輸出価格の変動をもたらした。

2022/23年度のタンジェリンの輸出は、収量の減少、イラクへの輸出の減少、ロシア・ウクライナ戦争、欧州の景気後退により、89万4,065トン(5億2千万ドル相当)であった。トルコは、2021/22年度には99万3千トン(4億7,600万ドル)のタンジェリンを輸出した。

タンジェリンはトルコの柑橘類の中で最も輸出されている品目であり、2023/24年度には6億5千万ドルに達すると予測される。実際、2023/24年度の最初の8カ月間のイラクへのタンジェリン輸出は、需要が高いことから2022/23年度の同時期と比較して68%増加した。

オレンジと同様に、タンジェリンをEU諸国に輸出するには適合証明書が必要である。さらに、2022年1月から、トルコ産タンジェリンの英国への輸出は、到着時の農薬検査の強化対象となっている。現在、出荷ごとの検査率は50%である。

図6 トルコのタンジェリン輸出量及び輸出額



出典: Trade Data Monitor, LLC. 2023/24年度は当事務所推計値

輸入

2023/24年度のタンジェリンの輸入量は、国内生産の余剰と、北キプロス・トルコ共和国(TRNC)の柑橘類果樹園で緑化病が見られることによる輸入制限のため、6千トンに急激すると予想される。

トルコは2022/23年度に5万6,277トンのタンジェリンを輸入し、そのほとんどがTRNCから輸入された。

2021/22年度のタンジェリン輸入量は5万6千トンであった。トルコのタンジェリン輸入は国内生産の状況に依存しているが、TRNCからの輸入は、トルコがTRNCを経済的・政治的に支援する手段でもある。

表2 トルコのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年9月		2022年9月		2023年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	60,719	0	67,853	67,853	69,000	69,000
収穫面積(ヘクタール)	60,719	0	67,853	67,853	69,000	69,000
結果樹本数(千本)	16,987	0	19,620	19,620	21,000	21,000
未結果樹本数(千本)	5,571	0	5,053	5,053	5,000	5,000
果樹本数合計(千本)	22,558	0	24,673	24,673	26,000	26,000
生産量(千トン)	1,810	1,810	1,860	1,860	2,642	2,883
輸入量(千トン)	53	56	52	56	50	6
総供給量(千トン)	1,863	1,866	1,912	1,916	2,692	2,889
輸出量(千トン)	994	993	894	894	1,100	1,100
生鮮国内消費量(千トン)	868	872	1,017	1,021	1,591	1,788
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	1,863	1,866	1,912	1,916	2,692	2,889

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<オレンジ果汁>

製造及び消費

2023/24年度のオレンジ果汁の製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、1万2,100トンと予測される。2023/24年度には、前年比30%増の12万1千トンのオレンジが加工に仕向けられると予測される。2022/23年度のトルコのオレンジ果汁製造量は9,240トンで、収量が少なく加工用に仕向けられるオレンジが減少したため、前年より24%減少した。

トルコの果実加工業はまだ発展途上であり、潜在的な輸出市場に参入できるよう業界を発展させるための政府の支援を求めている。果汁輸出業者らによると、トルコのオレンジ品種の搾汁率は必ずしも理想的な業界基準を満たしているわけではない。それらの基準を達成するため、トルコの生産者らは、果汁用果実の規格を改善する柑橘類の方針確立に向けて政府の支援を期待している。

トルコで最も人気のある果汁用の果実は、リンゴ、アンズ、サクランボ、オレンジ、ザクロである。柑橘類の総生産量の5～10%が果汁業界で加工されている。

国内市場では、同国の高いインフレ率と相関した小売価格の上昇が予想される。一方、オレンジ果汁の消費量は、2023/24年度に8,900トンに増加すると予測される。COVID-19のパンデミックが始まってから、オレンジ果汁の需要が増加した。しかし、トルコの果汁消費量は1人年間11リットルと推定されており、ヨーロッパ諸国に比べてかなり少ない。

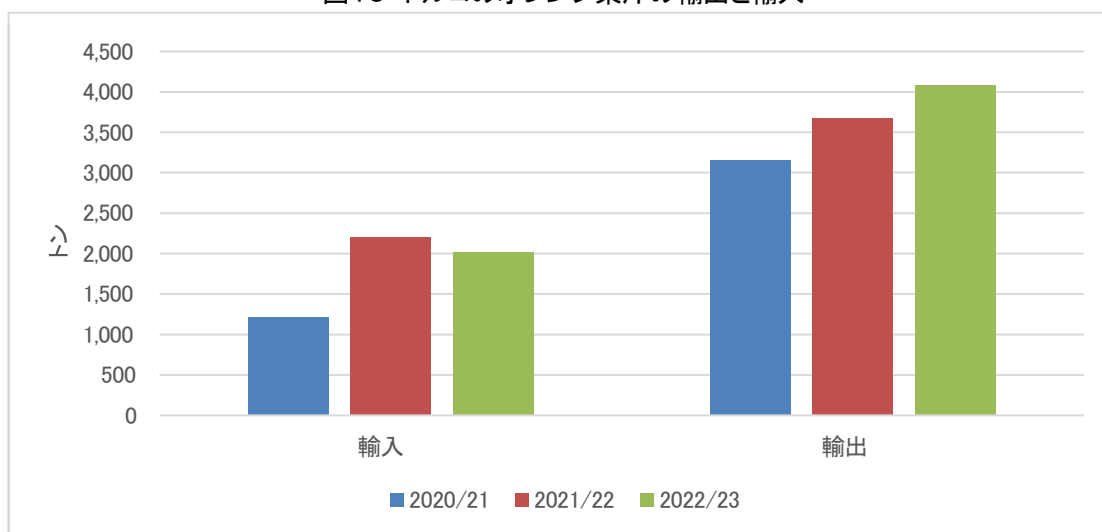
貿易

輸出: 果汁製造業者らによると、中国の製造量の減少に伴い、輸入国からの需要増加が予想されるため、2023/24年度のオレンジ果汁の輸出量は5千トンと予測される。さらに、果汁の輸出業者らは、世界的な供給不足により、2023/24年度により多くの輸出収入を得られると考えている。

トルコは2022/23年度に880万ドル相当のオレンジ果汁4,078トンを中心にドイツ、イタリア、オランダに輸出した。これは、2021/22年度に輸出した3,675トン(570万ドル相当)に比べ10%の増加となった。

輸入: 2023/24年度のオレンジ果汁の輸入量は、国内市場の需要が横ばいのため、1,800トンに減少すると推定される。トルコは2022/23年度に2,018トンのオレンジ果汁を輸入し、そのほとんどがキプロスとブラジルから輸入された。トルコは主に、加糖及び無糖の冷凍オレンジ果汁を輸入している。

図10 トルコのオレンジ果汁の輸出と輸入



出典: Trade Data Monitor, LLC

表5 トルコのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実加工仕向量(トン)	122,000	122,000	92,400	92,400	121,000	121,000
期首在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
製造量(トン)	12,200	12,200	9,240	9,240	12,100	12,100
輸入量(トン)	2,200	2,200	2,000	2,000	1,800	1,800
総供給量(トン)	14,550	14,550	11,390	11,390	14,050	14,050
輸出量(トン)	3,675	3,675	4,078	4,078	5,000	5,000
国内消費量(トン)	10,725	10,725	7,162	7,162	8,900	8,900
期末在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
総仕向量(トン)	14,550	14,550	11,390	11,390	14,050	14,050

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<レモン/ライム(生鮮)>

表3 トルコのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年9月		2022年9月		2023年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	52,233	52,233	55,426	55,426	56,500	56,500
収穫面積(ヘクタール)	52,233	52,233	55,426	55,426	56,500	56,500
結果樹本数(千本)	13,539	13,539	14,699	14,699	15,500	15,500
未結果樹本数(千本)	4,112	4,112	4,676	4,676	4,600	4,600
果樹本数合計(千本)	17,651	17,651	19,375	19,375	20,100	20,100
生産量(千トン)	1,500	1,500	1,320	1,320	1,584	1,584
輸入量(千トン)	3	3	4	4	3	1
総供給量(千トン)	1,503	1,503	1,324	1,324	1,587	1,585
輸出量(千トン)	693	693	554	554	637	700
生鮮国内消費量(千トン)	760	760	720	720	900	835
加工仕向量(千トン)	50	50	50	50	50	50
総仕向量(千トン)	1,503	1,503	1,324	1,324	1,587	1,585

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<グレープフルーツ(生鮮)>

表4 トルコのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	5,039	5,039	4,982	4,982	5,000	5,000
収穫面積(ヘクタール)	4,900	4,900	4,700	4,700	4,800	4,800
結果樹本数(千本)	1,189	1,189	1,073	1,073	1,200	1,200
未結果樹本数(千本)	27	27	68	68	40	40
果樹本数合計(千本)	1,216	1,216	1,141	1,141	1,240	1,240
生産量(千トン)	249	249	198	198	217	217
輸入量(千トン)	4	4	1	1	1	1
総供給量(千トン)	253	253	199	199	218	218
輸出量(千トン)	149	149	96	96	100	100
生鮮国内消費量(千トン)	103	103	102	102	117	117
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	253	253	199	199	218	218

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。